

研 究 分 野	水産増殖	部 名	漁業開発部
研 究 課 題 名	サケ・マス増殖管理推進事業 サクラマス		
予 算 区 分	水産業振興費 (国1/2)		
試験研究実施年度・研究期間			
担 当	植村 康		
協 力 ・ 分 担 関 係	内水研		

〈目的〉

サクラマス資源増大の方策策定のための基礎資料を得る。サクラマス人工種苗放流後の海での移動回遊、回帰率等を調査し、放流効果を算出し、栽培漁業化の可能性を探る。

〈試験研究方法〉

放流魚の初期の移動回遊を調べるため幼魚混獲調査を行い、成魚の移動及び回帰率を調べるため市場調査を行う。サクラマスの漁期は1月から6月であり、回帰群と一致するため、平成16年度報告書は2004年1月から6月の調査結果（市場調査、幼魚混獲調査）を取りまとめた。

〈結果の概要・要約〉

1) サクラマス市場調査

平成15,16年度は現地漁協に委託して、サクラマス漁期（1～6月）に漁獲サクラマスの標識の有無・種類を記録、報告してもらった。平成17年度も継続調査する。

調査地点：日本海沿岸： ①深浦漁協、②大戸瀬漁協

津軽海峡沿岸：③大畑町漁協

太平洋沿岸： ④白糠漁協

調査期間：2004年1月から6月

2) サクラマス幼魚混獲調査

現地調査員に依頼して、サクラマス幼魚が混獲される平成16年3月から6月にサンプルを収集してもらった。回収後、標識の有無、体長、体重、胃内容等を測定した。

調査地点：日本海沿岸： ①岩崎村、②深浦町

津軽海峡沿岸：③三厩村龍飛、④平館村、⑤佐井村、⑥大畑町、⑦むつ市関根浜

太平洋沿岸： ⑧東通村尻労

〈主要成果の具体的なデータ〉

1) サクラマス市場調査

- ・ 深浦は平成16年2月から6月の31日で1,873尾調査して、47尾の鰭カット標識魚を確認した。標識魚割合は2.51%であった。脂鰭カット標識魚が最も多く94%を占めた。他に左腹鰭カット、脂鰭+左腹鰭カット、脂鰭+右腹鰭カット、左胸鰭カットがみられた。
- ・ 大戸瀬は平成16年1月から6月の53日で4,291尾調査して、46尾の鰭カット標識魚を確認した。標識魚割合は1.07%であった。脂鰭カット、右胸鰭カット、左胸鰭カットがみられた。

- ・ 大畑は平成 16 年 1 月から 6 月の 113 日で 7,599 尾調査して 192 尾の鰭カット標識魚を確認した。標識魚割合は 2.53%であった。脂鰭+右腹鰭カット標識魚が最も多く 35%を占め、脂鰭+左腹鰭カット、脂鰭カット、脂鰭+右胸鰭カットの 4 種で 85%を占めた。
- ・ 白糠は平成 16 年 1 月から 3 月の 42 日で 8,529 尾調査して 152 尾の鰭カット標識魚を確認した。標識魚割合は 1.78%であった。標識部位の組合せは多様であり、多い順に脂鰭カット 21%、脂鰭+左腹鰭カット 19%、右胸鰭カット 15%等であった。

2) 幼魚混獲調査

- ・ 計 399 尾が集まり、26 尾が標識魚であった。標識魚は 4 月中旬から 6 月中旬に再捕された。鰭カット部位の組合せは 10 種であった。
- ・ リボンタグ標識魚は 3 尾で放流元は秋田県 1 尾、山形県 2 尾であった。
- ・ 胃内容物重量を測定できた 397 個体のうち、摂餌 221 個体の摂餌率は 0.13~16.41%で平均 1.22%であった。
- ・ 摂餌生物は不明 7 個体を除いた 214 個体でみると、端脚類が 58%を占め、次に魚類が 38%で、イカナゴや魚類稚仔の体長 3cm 前後のものを多く摂餌していた。他に、アミ類が 3%であった。

〈今後の問題点〉

- ・ 各道県・国で標識の鰭カット部位の調整がなされず、標識部位が重複することが多いため、鰭カットだけでは標識魚の帰属が不明の場合が多い。特に青森県放流魚は鰭カットのみの標識であり、他道県と標識部位が重複するため、青森県放流魚の特定は困難になっている。

〈次年度の具体的計画〉

平成 16 年度と同様の調査を行う。

〈結果の発表・活用状況等〉

- ・ 平成 16 年度報告書は平成 17 年度に印刷する予定である。
- ・ 印刷前でも可能な限り、協力漁協、漁業者を中心に、調査結果の公表を行った。